

北数教

北海道算数数学教育会
小学校部会 札幌支部
平成11年 1月28日発行

No.92

これからの算数教育がめざすもの

北数教札幌支部副支部長

札幌市立上野幌東小学校長 西村光弘

新学習指導要領案の算数の目標をみると「算数的活動を通して」「活動の楽しさに気づき」という新たな文言が加わっています。算数的活動とは何かがまた新しい話題になりそうです。このことについて議論をする前に、北数教第53回札幌大会と札幌支部の学習会で互いに学んだ事柄をこれからの課題としてみたいです。

幸い紙面が限られているので、問題提起を二つに絞って要点のみ触れさせていただきます。一つは、単元の名称を主体的に考え直してみること。二つ目は、算数学習で該当学年に相応しい子供を育ててみませんかということです。

1. 単元の名称を主体的に

山の手小学校の先生から、資料の整理という単元は、わたしたち4年生のことを調べてみようというテーマで取り組むことでもよいですかと投げ掛けられたのが幸いました。

その結果、「資料の整理」の単元を「わたしたち4年生のことをもっとよく知ろう」に変更し、次のような成果をみることができました。子供達が目的意識をもって情報を集め、それを整理していく学習活動を自然な姿としてみることができました。自分達のことを調査・整理す

するという能動的な姿勢が情報の集約場面で、この表から分かることやはっきりしないこと、もっと目的にあった整理の仕方や表について吟味する学習となり、落ちや重なりが存在を現実問題として学習することができました。過去にみられたような、与えられた資料を無目的に整理をし、意図的に落ちや重なりをしてしまう操作に陥られる学習よりは主体的な算数的活動であると考えさせられました。

2. 該当学年らしい算数学習

4学年の子供は、プロセスに着目できる年令であり、そのことを友達と確かめ合うことに最も興味をもつ時期です。この特性を生かしたいと考えます。5学年は、もっとよりよいものを求める算数的活動が期待できるはずです。

該当学年らしい算数学習として次のようなことを学年の重点としてはいかがでしょう。

- 1年 自分でする、操作したことを想起できる
- 2年 疑問をもつ、ひらめきを表出する
- 3年 既習を重視、既習を根拠に説明できる
- 4年 過程に着目、友達の考えとの確かめ合い
- 5年 比較検討とよりよい解決の追求
- 6年 目的をもった学習活動